

競技における行射の要領(一手・坐射・3人立の場合)

(公財)全日本弓道連盟

	1 番	2 番	3 番
甲 矢	間をおかず行射する。	1番が立ち、右拳を腰にとる頃立つ。 1番の「弦音」で、打起し行射する。	2番が立ち、右拳を腰にとる頃立つ。 2番の「弦音」で、打起し行射する。
乙 矢	射終われば跪坐し、矢を番えて立つ。 3番の「弦音」で、取懸け行射する。	射終われば跪坐し、矢を番えて立つ。 1番の「弦音」で、打起し行射する。	射終われば跪坐し、矢を番えて立つ。 2番の「弦音」で、打起し行射する。

打起しは準備する

(平成26年4月1日施行)

(注)

1. 入場口では、必ず上座に意を注ぎ1番は礼、2番以降は揖(二息)をする。
2. 本座に進み跪坐し、揃って揖(三息)を行い射位に進む。
*前立がある場合は、3番の甲矢の弦音で入場し、本座で跪坐して待つ。
*最後の弦音で揃って揖を行い、弓倒しで立ち、選手が後退し右に1歩踏み出すとき、射位に進む
*進行係の「始め」の合図で揃って揖を行い、射位に進む場合もある。
3. 射位で跪坐し、脇正面に向きを変え、弓を立て、矢を番える。
4. 射終われば1番より順次、退場する。
5. 退場口では、必ず上座に意を注ぎ、揖(二息)をする。
6. 行射の前後の動作は、間延びしないこと。
7. 4射(二手)および4人立の場合も上記に準じて行射する。
8. 制限時間が設定されている場合は、順立を崩さず間合を詰めてもよい。

- ①脇正面に向きを変えると同時に弓を倒して(末弭を床につけ)、矢の一手(2本)を体の前方(板付が中央)に置く。
- ②残りの一手(2本)を持ったまま(射付節または板付)右手拳を腰の辺におく。
- ③弓を矢の内側にして体の中央に立て、矢を番える。
- ④次の一手は、矢を持ち(射付節または板付)右手拳を腰の辺にとる。
- ⑤弓を体の中央に立て、矢を番える。